

一段とレベル・アップした論文発表を通じて、 さらなる飛躍を見せた日本GUIDE/SHARE 2002年度*研究成果発表会

IBMユーザー団体の一つとして、お互いに共通認識を持ち、連携・協調していくことを目的としている日本GUIDE/SHARE(以下、JGS)の2002年度研究成果報告会が、日本アイ・ピー・エム箱崎事業所などで9月12～19日の5日間にわたって開催されました。これは既に論文として提出された1年間の研究成果をプレゼンテーション形式で発表する報告会です。本誌では、9月12日に日本アイ・ピー・エム箱崎事業所にて行われた「IP部会」の報告会取材しました。どのチームも日ごろの研究の成果を発表し、JGSの活気を示すような発表会となりました。

例年以上に高かった参加チームの論文レベル

今回のIP部会の発表会では全9チーム9論文の発表会が行われます。論文発表に先立ち、IP部会会長である佐藤 夏夫氏より開催のあいさつがありました。佐藤部会長は「非常に充実した内容の濃い論文ばかりでした。一つの論文を読み終わるまで3時間もかかったほどです」と各チームの成果に賞賛の声を贈りました。また、今年の発表会から優秀論文賞のほかにもプレゼンテーション力を評価する優秀プレゼン賞の受賞も行うことも発表。優秀論文賞は、佐藤氏をはじめとするIP部会委員と日本アイ・ピー・エムのアドバイザーの計6人によって決定され、優秀プレゼン賞は各チームからアンケートで受賞を決めることとなります。



開催のあいさつを行う
IP部会長の佐藤 夏夫氏

佐藤部長は「論文執筆に当たり、皆様の会社内外に人脈が広がったものと思います。それは皆様の財産だと思えます」と述べ、本発表会の意義を述べ、あいさつを締めくくりました。

充実した論文内容を、工夫を凝らしたプレゼンテーションで発表

開催のあいさつに続き、各チームが研究成果を発表しました。全9チームによる、9論文のプレゼンテーションです(表2参照)。発表は各チームの代表者によって行われ、さまざまな示唆に富んだ提言が発表されました。

IP-02 企業内ポータル チームは、『企業内ポータルの構築と活用について』を発表しました。企業内ポータルの導入

表1. JGS研究成果報告会 開催日程 [全34チーム]

9/12(木) 箱崎事業所	情報システム企画(IP)部会
9/13(金) 箱崎事業所	ネットワークソリューション(NS)部会
9/17(火) 箱崎 / 大阪事業所	リソースマネジメント(RM)部会
9/18(水) 箱崎事業所	ウェブ&エンジニアリング(WE)部会
9/19(木) 箱崎事業所	システム製品(SP)部会

時にPRと啓蒙活動が必要だと語り、「PRや啓蒙活動を行うことによって、ポータル・サイトの利用が向上し、「結果として新たなニーズが生まれ、発展していく」と述べました。さらに導入後の活用においては、「経営者の強力なリーダーシップが必要」とも語ります。最後に、「従来の枠組みを超えて、Webサービスを活用したB to B、B to Eへと発展していく必要がある」と企業における、これからのポータル・サイトのあり方を述べました。

IP-03 インターネット・マーケティング チームによる、論文『バリューネットワーク時代における戦略的フレームワーク』のプレゼンテーションも示唆に富んだ内容でした。SWOT分析を行い、



IP- [ナレッジコラボレーション・アドバンスド・チーム]
ミズノ株式会社
目次 恭子氏
「1999年に『中堅社員のためのナレッジ・マネジメント活用術』という本を出版しました。ナレッジ・マネジメントは、それ以降も継続して研究をしてきました。今回のプレゼンテーションでは、凝った技法に走らずに、分かりやすいプレゼンテーションを目指しました」

IP-02 企業内ポータル チーム
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
草部 維也氏

「今回の発表ではポータル・サイトのイメージと概念をお伝えすることができました。これからは、ポータル・サイトは、ナレッジ・マネジメントの一環と考えていくべきだと思います。さらに幅広い人に、深くポータルの意義を伝えていきたいと思っています」



表2. 発表チーム・発表論文一覧

番号	チーム名	論題
IP-	ナレッジコラボレーション・アドバンスド・チーム	『ナレッジ・コラボレーションの実践』
IP-02	企業内ポータル	『企業内ポータルの構築と活用について』
IP-03	インターネット・マーケティング	『バリューネットワーク時代における戦略的フレームワーク』
IP-04	eマーケット・プレイス	『e-Marketplaceからe-Boutiqueへ』
IP-05	コンサルテーション技法	『模擬実験の実際と考察(3C分析を通して)』
IP-06	データマイニング	『データマイニング定着化の鍵』
IP-09	SCM(サプライチェーン・マネジメント)	『SCM 日本での実情と導入に向けての提言』
IP-10	システム統合	『システム統合のポイント』
IP-12	e-Learning	『eラーニング 成功の扉』

IP-03 インターネット・マーケティング チーム
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
中島 大氏

「実は今回の論文では、最後まで結論を決めることができず、非常に悩みました。しかし、その甲斐があって、出来上がった論文ではインターネットが今後の状況や行き着くべきところなども、今回のプレゼンテーションでは提言できたとおもいます」



IP-06 データマイニング チーム
川鉄情報システム株式会社
末松 徹也氏

「やはり、チームの皆さんの努力があってこそ、今回の論文のプレゼンテーションができた実感しております。これからも、データ・マイニングの普及と定着化、それによる各企業の今後の発展に貢献していきたいと思います」

ドットコム企業とクリック&モルタル企業の「強み」と「弱み」を洗い出し、その結果、「ドットコム企業とクリック&モルタル企業が協業して、お互いの強みを生かし、補いあうことで生まれるパブリックネットワークの中心を目指すべき」という企業間のコラボレーションの必要性を提言しました。さらに、業界の垣根を超える顧客のインターフェースである、コンバージェンスという新しいビジネス・モデルについて語るなど、インターネット・ビジネスの展望を示している論文でした。

IP-05 コンサルテーション技法 チームの『模擬実験の実際と考察(3C分析を通して)』では、架空企業をつくり、競合分析、顧客分析、自社分析を行う「3Cの分析」を実施しました。結果、「仮説を立て、それを実践検証すること」「目的を明確に持つこと」「実践をすること」「理論と繰り返しによる実践から、コンサルティングのスキルを高める必要がある」という分析結果が導き出されました。

『データマイニング定着化の鍵』をプレゼンテーションした、IP-06 データマイニング チームは、「データ・マイニングの成功は“導入”よりも“定着”が重要」とであると語ります。そのためには「膨大なデータの処理」「隠れた規則性の発見」「ビジネスの利用率」に定着化の「鍵」があると述べます。

ほかにも、ナレッジ・マネジメントの企業内実践について考察したIP-07の『ナレッジ・コラボレーションの実践』や、分かりやすいプレゼンテーションが印象に残ったIP-12の『eラーニング 成功の扉』など、興味深い論文発表がありました。

13時50分から17時30分までの長時間に及ぶ論文発表会で

したが、充実した論文内容のプレゼンテーションに引き込まれているうちに、気が付くと全チームの発表が終わっていました。各チームとも、1年間の研究成果を、短い時間で、手際良く発表するだけにとどまらず、今後のITビジネス・社会における重要な指針も含ませていました。非常に考えさせられる、意義のある発表会でした。



各チームの代表者によるプレゼンテーション

論文内容、プレゼンテーション手法の二つの側面から賞を授与

論文発表が終了後、箱崎事業所の25階の特別会場に移動し、懇親会が開かれました。各チームや日本アイ・ビー・エムのアドバイザーが交流を深める中、いよいよ本日の審査発表が佐藤部会長より行われます。



優秀論文賞受賞の
[eマーケット・プレイス]チームの皆さん

優秀論文賞は、IP-04 [eマーケット・プレイス]チームによる「e-Marketplaceからe-Boutiqueへ」でした。受賞チームは、11月開催予定の秋期大会でJGSから正式に表彰されます。また、来年4月開催予定のITコンファレンス(春期大会)で論文発表を行うという栄誉も贈られました。

優秀プレゼン賞は、発表者2人の息の合ったコンビネーションで場内を沸かせたIP-12 [e-Learning]チームが受賞しました。



優秀プレゼン賞受賞の
[e-Learning]チームの皆さん

佐藤部会長は「論文が非常にレベル・アップしているので大変、喜んでいきます。JGSとしては、この勢いを止めることなく、どんどん末広がりになっていけるようにしていきたいです」と本発表会を振り返りました。

最後に、各受賞者に賞品授与、記念写真撮影が行われ、一本締めと掛け声とともに、本発表会は好評のうちに幕を下ろしました。

*注：2002年度とは2001年10～2002年9月の期間